

第6回埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議

議事概要

日時：平成29年7月21日（金）
13：30～15：20
場所：埼玉県庁本庁舎2階 庁議室

1 開会

2 あいさつ（堀口課長）

3 議事

（1）埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本指標及びKPIの達成状況について

<主な質疑応答>

- 総合戦略におけるKPIは、どのような根拠で設定されているのか。
⇒ 大きく分けて2つのパターンがあり、①合計特殊出生率のように中長期の目標があり、それを達成するための5年後の数値を設定しているもの、②過去数年の実績のトレンドをベースに目標値を設定しているものがある。
- 特別養護老人ホームの整備はなぜ目標を下回ったのか。
⇒ 想定していた施設の整備が進まなかったためである。介護サービスの提供には施設整備とともに介護の担い手確保・定着も重要であり、しっかり対応していく。
- 経営革新支援、次世代産業・先端産業支援及び企業誘致による付加価値創出額が目標を下回った理由は。
⇒ 構成要素のうち経営革新支援が目標を下回った。全国一の実績ではあるが、かなり高めの目標を設定していたため、目標にはわずかに及ばなかった。
- 地域社会活動への参加経験が「ある」と答えた人の割合の実績が目標を下回る一方で、働くシニア層が増加している状況をどうとらえるか。
⇒ 働くシニアの増加は望ましいが、そのために地域参加しにくくなっているのは悩ましいところ。仕事と地域活動を両立できるような環境づくりが今後の課題と考えている。

（2）平成28年度地方創生関連事業

<主な質疑応答>

- KPIに対する達成率の事業ごとの極端な差はなぜ生じたのか。
⇒ いずれも新規事業のため、手探りで目標を設定したものもあり、中には見込みが大きく外れたものもある。
- 移住サポートセンターは、来場者の現地見学なども考慮して、都内だけでなく県内にも設置した方がよいのではないか。
⇒ 現在は都内のみの設置であるが、現地を訪れる重要性を踏まえ、市町村に丁寧につなぐことや体験ツアーの活用などが重要と考える。

- 移住は一大事なので、いきなりではなく、まず2地域に居住してはどうか。セカンドハウスとして過ごした後、本格的な移住につなげていく。住民税を2つの居住地で等分し、双方で住民サービスを受けられるような設計はできないか。
 - ⇒ いきなり移住することはハードルが高いため、段階を踏むことは重要と考える。税と住民サービスも実態に即した形になれば真の2地域居住になるが、現在はメインの居住地において課税される。県単独で解決することは難しいが、検討課題としたい。

- 埼玉アグリライフサポートセンターの利用者は、どのような年齢層が多いのか。移住先については特定地域を想定しているのか、来場者の希望に応じているのか。
 - ⇒ 来場者には若年層も多く、開設半年後の調査では30代が最も多かった。移住先は来場者の希望に応じて対応しており、特定地域への誘導はしていない。

- 外国人観光客が増加している一方、県内の宿泊施設が少ない。都心に近い立地を生かして宿泊施設の整備に注力すべきではないか。
 - ⇒ 宿泊施設の稼働率は、県南地域は8割でほぼ満室状態であるが、秩父地域は4割に留まっており、秩父地域における宿泊の促進を進めている。
- 秩父地域は宿泊施設の絶対数が少なく、各施設が宿泊者を取らないということもあるのではないかと考える。宿泊施設を整備すべきと考える。

- オーダーメイド産地の育成について、医療メーカーにおける具体的なニーズとは何か。
 - ⇒ この事業は食品や医療メーカーのニーズに応じた農作物を生産するものであり、食品メーカーの引き合いが多く、医療メーカーの具体的なニーズの内容は把握していない。

(3) 意見交換「埼玉の魅力を高める」

<主な意見>

- 高齢者の運転による事故が多いが、免許証の自主返納を進める場合、高齢者の生活を確保することが必要である。コミュニティバスの運行、タクシーチケット配布、コンパクトシティ化、中心市街地活性化などの取組はあるが、決め手となる政策がない。高齢化が加速する埼玉県では、まちづくりと高齢者をマッチングすることが重要と感じる。
- 各市町村も地方創生の総合戦略を策定しており、それらを着実に実行することが埼玉の魅力を高めていくことにつながると思う。埼玉の魅力を高める上で、経済力の向上は大きな意味を持つ。また、地域の誇りを持つことも大事であり、一つ一つのまちの魅力を高めることが埼玉県の魅力を高めるのだと思う。
- 新座市の3つの大学は、それぞれ市と協力して市民総合大学を実施し、地域の人材を育成しており、卒業生は様々な形で市政を支えている。観光、自然保護、子育てなど様々な分野の団体がネットワークを作り、行政と直接つながることで、これまで行政が縦割りで出来なかったことも横串にして様々な活動を行っている。

活動している方々の平均年齢は70代前半だが、携帯やパソコンを使いこなし、自主的に活動している。現在の高齢者は情報リテラシーも高く、地域活動の有能な担い手が多い。活躍していただくには、リーダーとなる自覚を持っていただく仕掛けづくりが必要だ。

ふるさと支援隊として神川町で6年活動しているが、埼玉県は都市部もあれば中山間部もあり、両方混在しているのが埼玉の良さでもある。ペアシティのような仕組みをつくり、子供たちがそれぞれを行き来して、互いの資源を有効活用してはどうか。
- 県の企業誘致は製造、流通が8割を占める。県北の農産物加工事業者を県が誘致した食品メーカーに紹介したことがあるが、こうしたマッチングを県も強力に進めてはどうか。
- 外国人旅行客の宿泊日数は平均10日くらい。5つ星ホテルはタイやメキシコに100以上あるが、日本は28で県内にはない。旅館にはルームサービスがなく、夜楽しめる場所もない。長期滞在者が夜出かけられる施設があれば観光客の誘致につながると思う。
- 地元の自治会の集会所があまり使われていないと聞き、地域の方々が写真を持ち寄る写真展を開催し、地元の大学の学生にも準備に参加してもらったところ、通学のためだけに町に来る学生が地域のことを知るきっかけになり、今では夏祭りの提灯付けなど自主的な異年齢交流に発展している。地域の方々が気づかないことも、学生の素朴な質問で課題に気付いたり、思わぬ地域資源に気付くこともあった。こうしたことがもっと多く起こるようになるとういのではないか。
- 3年前、日本薬科大学の学生が県内で地域活動をしている学生どうしのネットワーク「わかたま」を立ち上げた。学生が自主的に活動し、教員は一切関わっていない。それでも途切れずに現在も継続している。学生と地域との連携活動について、学生も連携したいという動きもある。
- 日本全体で人口が減少し経済も縮小していく中で、仮に埼玉だけが良くなるということがあれば、逆にどこかが衰退しているということになる。埼玉だけ良くなればよいという価値観を転換し、いかに県外に人を流すか、繋げていくかという発想になることで全国的

な発信力を持てるようになるのではないか。

近隣県の長野や群馬は日本一でない気が済まない人が多い。こうした多様な県に囲まれているメリットを生かしてはどうか。自分のところだけに富や名誉を取り込むのではなく、他に発信していくことによって得られるものがあるのではないか。

- 秩父は最近非常に伸びている。「わらじカツ」も数年前はほとんど知られていなかったが、いろいろな物産市で販売した結果、以前は500円でも売れなかったが今は千円で売れるようになった。毎年取り組んでいくことでメディアに取り上げられ、皆さんに知られていく。埼玉県はまだまだ売れる。魅力は絶対ある。一つ一つの魅力を結びつけ、点と点を結んで上手に発信すればまだまだ売れる。埼玉は交通の便も良い。周りをつながることで、その先の方々が来てくれる。

秩父には危機感を持っている人が多く、だからこそやる気になっている人も多い。秩父の人は県南のことを東京圏と思っているが、ぜひ一緒に活性化していけるとよい。

- 埼玉の県南地域は都心に近くアクセスも便利で、かつ自然もある。災害も少なく、移り住んでみて良かったという話をよく聞く。

ただし、強い魅力がない。群馬には上毛かるたがあり、全ての県民がそらんじられる。長野は県歌「信濃の国」をみな歌える。郷土の誇りがある。排他的になってはいけませんが、卑屈になってはいけない。埼玉はこんなに良いところだという余裕があれば、他の県も尊重できる。埼玉は観光資源も豊富で、野球チームがあり、サッカーチームも2つある。スーパーアリーナもある。これから育つ子供たちが埼玉に愛着を持てるようになれば、他県に働きに行っても、埼玉はこんなに良いところだとアピールする。それを聞いた方が埼玉は魅力あるところだと思う。それには小さいお子さんが学ぶ環境があると良いと思う。

- 日本全体で人口のぶんどり合戦をし、各地で移住希望者にラブコールを送っている。こうしたお互いに首を絞め合うようなことがあるべき姿なのだろうか。幸福度という考え方があり、国内であれば富山や福井、国外であればブータンなどの名が挙がる。ワークライフバランスが求められている中で、埼玉に住むと日々の充実度、暮らしやすさを含めて魅力を高めていくことが大事だと思う。「多様な働き方実践企業」の実践度合いなど、どれだけの多様さをもっているのかをもっと追究していくべきではないか。

今の学生は仕事が全てではないという考えを持つ人が増えている。価値観が変わっていく中で、社会を変えていくということを埼玉が率先していけると良いと思う。

- サイボクハムの年間来場者数は、千葉県の鴨川シーワールドより多い。県外からも多くの方が来られているのではないか。

また、他県は特産物へのこだわりや郷土への誇りを持っているが、埼玉はこうした面が弱いと感じる。新しいものを作ることも重要だが、今あるものを埼玉県民が意識して「買う」、「使う」ことが重要なのではないか。

- SKIPシティの国際Dシネマ映画祭のオープニングパーティーに参加した。国際的なイベントであるので、外国のクリエイターなどにあいさつしてもらってはどうか。映画好きな県民にもっと集まってもらうなど、SKIPシティへ県民（県内自治体・団体）の耳目を集める仕組みづくりをしてはどうか。大変な資金を投じて完成したすばらしい施設であるので、地域の映像制作支援にきめ細かく取り組むべきである。

県内の研究拠点では、国際的人材が汗を流し、知恵を絞って仕事に取り組み、家族とともに生活している。こうした方が埼玉で過ごす中で学んだことをフィードバックしていただけると、力になるのではないか。